

2012（平成24）年度

FD 研究部会活動報告書

第4号

徳島文理大学
徳島文理大学短期大学部

FD 研究部会活動報告書

目 次

1. はじめに	1
2. FD活動の内容	1
3. 研修会・講演会	2
4. 全学授業評価アンケート	3
5. 研究授業	5
6. 卒業生満足度評価アンケート	7
7. おわりに	10
8. 用語解説	11

資 料 編

1 FD研究部会会議	12
2 研修会・講演会	14
3 全学授業評価アンケート	18
4 研究授業	25
5 卒業生満足度評価アンケート	29

1. はじめに

「徳島文理大学 FD 研究部会」は、学士課程の FD 義務化（平成 20 年度より）を受け、全学的 FD 活動の推進・支援を目的として平成 19 年 12 月に設立された全学委員会の一つである。設立以降の活動は、「FD 研究部会活動報告書（創刊号：平成 22 年 5 月）」としてまとめ、年次報告をおこなってきた。

本年度も、前年度までの活動を継続するとともに、改善計画を毎月開催の研究部会で討議・検討を加えながら順次取り入れて実施してきた。本報告書（第 4 号）は、平成 24 年度（平成 24 年 4 月～平成 25 年 3 月）FD 研究部会の活動成果抄録である。

2. FD 活動の内容

FD 研究部会は、短期大学部を含む全学部より選出された部会委員と両キャンパスの教育・研究支援グループで構成され、月例の FD 研究部会において検討を加えた 4 項目（①研修会・講演会、②全学授業評価アンケート、③研究授業、④卒業生満足度評価アンケート）の活動を分担して行ってきた。（付属資料-1）

まず、FD 研修会・講演会については、昨年からの複数回開催を継承し、引き続き受講機会の拡大に努めた。また、SPOD との共催講演会に加え、四国外から講師を招聘する本学独自の講演会を後期末に開催した。これらの講演会・研修会は、遠隔配信することで、キャンパス間移動の負担軽減に努めた。

開催プログラムは、研修会後のアンケートなどでいただいたご意見をもとに、より多様化するとともにご要望の多いワークショップを更に充実させることも必要と考えている。

つぎに、最も大きく前年度から変更した活動が全学授業評価アンケートである。本年度より一部 Web 化を実施し、アンケート集計を過去のデータにさかのぼって比較検討できるようにし、教員のアクションプランを電子化することで、学生へのフィードバックを実質化した。まだ、試行段階ということもあり、関係各位からご意見を頂きながら、一層の改良に努めていくこととしている。

また、「教員相互の授業参観」と位置づけた研究授業を実施していただいている。目的は、他の教員の授業を参観することにより、自身の授業の改善に資することである。本年度の実施は 32 科目であったが、どの授業も該当週に参観が可能なオープンクラスウィークを昨年の理工学部に加え、本年は薬学部でも実施していただいております。この開講科目数を加えると相当数の授業が参観可能となった。さらに、目標設定型の新しい研究授業の取り組みも試行いただいております。より多様化するとともに質的向上をはかっていきたいと考えている。

最後に、卒業生満足度評価アンケートについてふれる。本調査の目的は、入学から卒業までの学生生活全般についての調査結果を基に、在校生及び今後入学してくる学生がより良い学生生活をおくること出来るように改善を図ることにある。

学生生活全般について 6 カテゴリー、26 項目についてアンケートを実施した。

例年、卒業生満足度評価アンケートは学生から高い評価を受けているが、それに満足することなく、さらなる改善が必要といえる。また、薬学部、香川薬学部の6年制、また保健福祉学部看護学科の卒業生が輩出する2年目にあたることから、実施4年を経過した本年、担当部会委員のご尽力をいただき、これまでの卒業生満足度評価アンケートの蓄積データの分析を行った。

この結果をもとに、今後、アンケート内容、実施主体等を含めて様々な角度から検討を加えていくことが必要と考えている。以下、各項目について、詳述する。

3. 研修会・講演会

3-1 現状

FD活動では個々の教職員がその重要性を理解し、それぞれの教育の場面において継続的に自ら改善に取り組むことが重要である。改善に必要な知識や技術を修得するため、平成24年度は、本学学内で開催する研修会・講演会を2回実施し、加えて「四国地区大学教職員能力開発ネットワーク（SPOD）の研修プログラムのうち、本学以外の会場で開催されるプログラムを遠隔配信形式で適宜紹介した。

平成24年度に本学学内で開催した研修会・講演会は、第1回目が平成24年9月14日（金）で、川野卓二先生（徳島大学 大学開放実践センター）を徳島キャンパスにお招きして、「マナー化しない公開授業の秘訣 — 公開授業の効果的実施方法 —」をテーマに講演を実施した。本研修会は、SPOD研修プログラム（プログラム番号T-010）を活用したものであり、香川キャンパスには遠隔配信を行った。参加者数は、41名（徳島23名、香川18名）であった。研修後のアンケートは、30名から回答があり、「全体的に満足できるものだった」とする者が回収数比で33%、「どちらかといえば全体的に満足できた」とする者が同じく53%であり、これらを合わせると86%の参加者が好意的に捉えていた。

第2回目は平成25年3月21日（木）に、徳島キャンパスを主会場とし、香川キャンパスには遠隔配信する形式により、2会場で実施した。プログラムは、本学FD活動の概況紹介、FD研修会の参加報告2件、その後招待講演という構成であった。招待講演には、立命館大学 教育開発推進機構から2名の講師をお招きし、「学生実態をめぐる問いと学習成果へのアプローチ — 立命館大学の教学 IR を事例に —」をテーマにまず鳥居朋子先生の講演、続いて「教学 IR におけるリサーチ・クエスチョンの導き方 — 経験から問いを立てる —」のテーマで川那部隆司先生のミニワークショップを実施した。参加者数は56名（徳島37名、香川19名）であった。研修後のアンケートは、39名から回答があり、「今後の授業改善のために大いに役立つ内容であった」とする者が回収数比で59%を占め、「参考にすべき内容がいくつかあり、まずまず良かった」とする者が38%で、計97%の参加者から好評を得た。自由記述欄には、今後の研修会・講演会の内容や本学のFD活動自体への要望・問題点の指摘など多数の建設的意見が出された。

3-2 点検・評価

FD に関する研修会・講演会については、FD の意義や必要性について多くの教職員の理解を深め、意識を高めるとともに、実際の授業改善に寄与するスキルアップの機会の提供が必要である。こうした方向性に沿って、これまで本学においては FD に関する研修会・講演会を実施してきた。

研修会後のアンケート結果からは、参加者の多くが FD 活動の意味やそれに取り組む必要性などについての理解が深まっていることを確認できた。また、自由記述欄からは、多くの教員が実践できる内容のプログラムを求めていることも伺え、より高度なレベルでの FD 活動の必要性が示された。

一方で、本学で開催した研修会・講演会の参加者数は例年と比較して少なかった。日程的な都合もあるため、それらを単純に比べることはできないが、より多くの教員が FD 活動に自発的に参加するための取り組みは、更なる改善が必要である。今年度では、平成 25 年 1 月 17 日（木）に愛媛大学からの遠隔配信により受講した SPOD の研修プログラム「学生の授業時間外学習を促すシラバス作成法」は、徳島・香川両キャンパス合わせて 70 名の参加があり、今年度の研修会・講演会の中では最も参加者が多かった。これは、シラバスの改編時期が近かったことで、教員の関心が非常に高かったことが影響していると考えられ、受講者のニーズにうまくマッチングした内容の研修会・講演会を適時提供していくことが重要であることを示している。

3-3 改善計画

本学の FD 活動の進捗状況や教職員の FD 研修へのニーズを適切に見極めた上で、本学に必要な研修会・講演会を適時、継続的に実施することが重要である。アンケートでは、研修会・講習会への参加者増を求める声とともに、実際の講義に直ぐにでも導入できる、実践的内容を求める意見や、研修会での具体的な例示に対する要求が高い。本学教員の関心が高いテーマを厳選し、個々の教員の教育力の向上発展につながるような研修の機会作りに取り組む。また、教員によって、求めている内容が細分化されているため、SPOD をはじめ他大学がもつ研修資源を積極的に活用し、研修機会の充実に努める。

4. 全学授業評価アンケート

4-1 現状

平成 24 年度における全学授業評価アンケートは、マークシートによる回答方式であり、各学部に通の基本質問項目と各学部や各授業との設問項目と自由記述欄が含まれた形式であった。

この集計結果を教員に返し、評価結果に対する教員からのコメントを学生に対してフィードバックした。

昨年度までは、集計結果は印刷されたものが返され、紙のフィードバックシートを利用してコメントを開示する方式だった。しかし、印刷と返却に時間がかかること、開示されたコメントを閲覧する困難もあった。

そこで今年度から、集計結果とコメントのフィードバック部分を電子化し Web 上で手続き可能なハイブリッド授業評価システムを採用した。これによってアンケート回収からフィードバックまでの時間を短縮し、学生は学内の端末から Web で、学部内の先生の授業評価アンケート結果とコメントを閲覧できるようになった。

4-2 点検・評価

(1) アンケート実施について

新しいシステムによる実施となったが、アンケートの実施・回収とも特段の問題は起きず、概ね円滑に行なわれた。平成 24 年度は、ハイブリッド授業評価システム導入のため、前期の調査を休止し後期のみの実施となった。

(2) アンケートの結果について

平成 24 年度の回答者数は、学部・短期大学を合わせて、後期 22,283 名となっている。評価結果が高かったものとして「あなたはこの授業にまじめに出席しましたか」(4.39)と「授業に対する教員の熱意は感じられましたか」(4.32)が挙げられる。一方、3点台の項目は「あなたはこの授業に関して、予習復習を行いましたか」(3.00)と「この授業の内容は理解できましたか」(3.93)となった。

学生側・授業者側とも、授業に対して意欲的に取り組んだことは評価されたが、予習復習の取組みが十分行なえていないことと、結果的に授業内容の理解について満足が得られていない現実も浮かび上がっている。

学部と短期大学部とを分けた集計も行なわれた。回答数は学部 20,025 名、短期大学部 2,258 名であった。単純集計値の直接比較は難しいものの、学部と短期大学部で評価の傾向は同じであるが、平均点は短期大学部の方が総じて高くなっている。授業規模や資格取得といった環境要素が影響しているとも考えられる。

	回 答 数 (名)	22,283	20,025	2,258
	設 問	全体	学部	短期大学部
1	あなたはこの授業にまじめに出席しましたか	4.39	4.39	4.34
2	あなたはこの授業を理解しようと努めましたか	4.23	4.22	4.27
3	あなたはこの授業に関して、予習復習を行いましたか	3.00	2.99	3.12
4	授業内容は、シラバスにそっていたと思いますか	4.16	4.16	4.18
5	授業に対する教員の熱意は感じられましたか	4.32	4.31	4.45
6	教員の説明は聞き取りやすかったですか	4.13	4.11	4.31
7	教員の説明はわかりやすかったですか	4.07	4.05	4.25
8	教科書や教材（プリントなど）は適切でしたか	4.16	4.15	4.33
9	板書や視聴覚教材などは効果的に利用されていましたか	4.08	4.07	4.20
10	この授業の内容は理解できましたか	3.93	3.91	4.10
11	この授業は知識・技術の習得につながりましたか	4.10	4.09	4.22
12	総合的に見て、この授業はよかったですか	4.18	4.17	4.34

4-3 改善計画

担当の先生方は、Web（電子）化された授業評価アンケート結果を分析（学部との比較、経年変化、クロス集計など）し、アクションプランシートの「コメント」にまとめることによって自己評価をするとともに、「今後の授業に向けて」で結果に基づいて授業の在り方を考察している。このように全学授業評価アンケートの目的は結果を評価するのではなく、先生方がアンケート結果を基に、授業をよりよいものに改善していく一つの方法である。なお、全員のアクションプランシート（平成 23 年度まではフィードバック）については、各学部に CD で配布しているので、これを基に協議することは可能である。

次に、ハイブリッド授業評価アンケート実施上での課題を挙げる。

- ①連絡用のメールに一部未着信があった。業者から再度、個別に送信したが、未着信の原因がまだ、究明されていない。
- ②マニュアルの修正（個人設定や個人記述欄に関係する箇所）が必要である。
- ③学生への開示（アンケート結果とアクションプランシート）を学部内に限ったため、専門の講義で先生の所属学部以外の学生が開示データを閲覧できない不具合が生じている。本年度は、学生の所属するキャンパス内は自由に閲覧できる方向で検討している。
- ④学部ごとにアンケート結果とアクションプランシートの PDF ファイルを業者に作成を依頼し、学内のサーバーに置いたため、科目数が多い学部では学生が該当の科目を探しにくい。
- ⑤学生のアクセス数をカウントする機能を付け、学生の関心度を把握したい。
- ⑥平成 25 年度から非常勤講師にも授業評価アンケートを実施する。メールアドレスがないために、事務局から紙ベースで連絡する。アクションプランシートの入力ができない先生は、紙ベースで提出いただき事務局が代わりに入力する。

このように、初めての実施年度であったため、様々な課題が出てきている。しかし、アクションプランシートの記載期間が短かったにもかかわらず、約 90%の科目について記入していただいた。今後も、新システム導入結果を評価した上で、運用改善を続けていきたい。また、アンケート回答部分の電子化の可能性についても引き続き議論していく。

5 研究授業

5-1 現状

本学は、平成 20 年度後期より、徳島・香川両キャンパスの全学部で研究授業を実施しており、今年で 5 年目となっている。平成 24 年度は、徳島キャンパスで 18 科目、香川キャンパスで 14 科目（両キャンパス合計 32 科目）の研究授業が開催された。実施回数については、各学部や各学科の教員数の実情を踏まえて決定している。また、32 科目のうち 3 科目（徳島キャンパスで 2 科目、香川キャンパスで 1 科目）については、今年

度からの新しい試みとして、目標設定型の研究授業として実施した。

また、今年度も昨年度からはじめたオープンクラスウィーク（10月22日～10月26日）を理工学部において実施し、薬学部（徳島）でも新たにFD活動の一環として実施いただいた。

(1) 目的

本学の（従来型の）研究授業は、開始当初より「教員相互の授業参観」として位置づけられている。これは授業担当者の指導レベルの向上を主としたものではなく、授業参観教員の授業改善を目的としている。参観を通して参考になるもの、取り入れられるものを見つけ自分自身の授業に活かしていくためのものであって、授業担当者の教授法に対し、改善点を指摘するためのものではない。

今年度、試験的に導入した目標設定型の研究授業は、従来型の研究授業とは異なり、教授方法や授業運営上の改善点をあらかじめ設定しておき、それを中長期に渡り1名以上の教員で調査・研究するものである。組織による効果的な授業技術の掘り起こしと、その共有が主目的である。

(2) 実施方法

実施方法は、昨年度同様の手順によって進められた。各学部及び各学科は、学期はじめに研究授業を担当する教員と研究授業を補助する教員（授業協力者）を定め、担当教員は、研究授業とする科目及び実施日を決定する。科目と実施日については、FD研究会が全学の教員に対して周知し、出席を促した。また研究授業は、所属学部に関係なく誰でも参観し聴講可能である。1講時90分の内、原則として授業開始から60分を授業参観とし、残りの30分を研究授業担当教員と授業協力者、そして参観教員による意見交換会の時間とした。研究授業の進行及び記録は授業協力者によって進められ、意見交換会では「1.目的」の研究授業の主旨に基づき、授業全般、学生の様子や反応、教員と学生の相互作用などについて討議がおこなわれた。研究授業の記録は、別紙の様式にて授業担当者と授業協力者によって作成された。記録用紙は、研究授業実施後2週間以内に各学部のFD研究部員をとおしてFD研究会へ提出するよう依頼をした。

目標設定型の研究授業は、事前に授業技術向上のための目標（テーマ、新しい取組み）、実施期間（目標を達成するために必要十分な日数を設定する）を学科内で決定し、大学内に公表する。このとき、目標に興味があれば他学科の教員も参加することができる。目標の設定においては、従来型の研究授業の成果を反映させることを奨励した。設定期間内に目標を達成するための取組みを実際に講義で実施する。このとき、従来の研究授業のようなことを開催してもいいし、そのようなことが不要であればなくてもよい（検討会のようなことで代替可能）とした。設定期間後、実施代表者はすみやかに実施した授業技術向上のための取組みについての報告書を作成し、全学FD研究会に報告する。今年度実施された3件の目標設定型の研究授業のテーマは「テキストマイニング手法を用いた分析方法の教授法」（メディアデザイン学科）と「講義形式の授業における課外学習時間確保の取組み」（電子情報工学科）、「自学自習を促す学習課題の提示 予習復習のために」（短期大学部）であった。

また、今年度も香川キャンパス理工学部を対象にオープンクラスウィークを実施した。オープンクラスウィークとは、ある一定期間にすべての講義を自由に聴講できる期間を設けたものである。理工学部では、平成24年10月22日（月）～10月26日（金）の5日間を実施期間とした。全教員に対しては、期間中は講義室後部に椅子を設置する、ドアを解放しておく、など講義中に他の教員が自由に聴講できるような環境作りを依頼した。評価としては、聴講した教員は、聴講回数及びコメント等をFD研究部員へメールで報告するという方法を取った。

5-2 点検・評価

平成20年度から全学的に始めた研究授業は5年目を迎え、実施科目数はその年により変動はあるものの、昨年度までは増加傾向にあった。しかし今年度は、両キャンパスにおける研究授業の実施科目数は32科目であり、平成21年度32科目、平成22年度29科目、平成23年度32科目との変化をみると、実施科目数はほぼ同じである。

オープンクラスウィークについては、昨年度は試験的に理工学部で実施したが、今年度は薬学部（徳島）も加わり、2学部で実施された。また2学科でおこなわれた目標設定型である新しい研究授業の取り組みについては、それぞれの取り組みの中で目標が達成された。具体的には試験の平均点の向上や授業評価アンケートの結果が良好、などの報告があり、おおむね良い評価ができたと考えられる。ただし、目標設定型の研究授業とその結果について直接の因果関係があるか、はっきりと断定できない部分があるのも事実である。しかし、次年度も目標設定型の研究授業は積極的に取り入れていくべきであると考えられる。

5-3 改善計画

これまで、研究授業のマンネリ化を防ぐための改善策として、様々な取り組みをおこない、その中の一つに、オープンクラスウィークという新しい取り組みが試験的におこなわれてきた。今年度もオープンクラスウィークは継続しておこなわれ、またその他、目標設定型という新しい研究授業の取り組みもおこなった。現在は、従来型の研究授業（教員相互の授業参観）、オープンクラスウィーク、新しい研究授業（目標設定型）、これら3つの手法があるが、次年度も各学部及び各学科がより適当であると考えられるものを選び、積極的に取り組むことを期待し、周知していきたい。ただし、今年度初めて取り組んだ目標設定型の研究授業については、より良い効果・結果をめざすため、次年度も検討を重ねていきたい。

6 卒業生満足度評価アンケート

6-1 はじめに

「卒業生満足度評価アンケート」は、卒業時に本学での学生生活を振り返り、教育内容や施設、学生生活などについての意識を知り、「本学の教育の充実と改善を図るため」の資料を得る目的で平成21年度～平成24年度（4年間）にかけて継続的な調査が実施

されている。

平成 21 年度～平成 23 年度（3 年間）については、「各年度 FD 研究部会活動報告書」において報告している。今回の報告では、平成 24 年度を含めての過去 4 年間の調査経緯を踏まえながら、蓄積されたデータを分析し、本アンケート調査の（一応の）総括として、より具体的な現況（経緯）、課題及び提言を行う。

6-2 経年的な経緯を踏まえた分析

(1) 全般的な動向

①「Ⅴ. 総合評価」項目の変動と比較

- ・平成 23 年度 (4.39) < 平成 21 年度 (4.41) < 平成 24 年度 (4.43) < 平成 22 年度 (4.49) で、(以下 3 ②) で述べる 4 設問以外は、比較的高い評価であるが、年度別での傾向の特定は困難である。

②「Ⅱ. 授業・教育課程」項目、「Ⅲ. 大学の施設および支援体制」項目、「Ⅳ. キャンパスライフ」項目の変動と比較

- ・年度により変動は見られるが、特徴的（普遍的）変化の特定は困難である。各項目別では「Ⅲ. 大学の施設および支援体制」項目が各年度とも低値傾向である。

(2) 学部別・キャンパス別・学科別での動向

①学部別、キャンパス別での評定の変動

- ・学部別では、多少の差違は見られるが、特徴的な傾向の特定は困難である。ただ、平成 21 年度～平成 23 年度では理工学部、平成 23・24 年度では薬学部（徳島・香川キャンパスとも）が低値傾向である。
- ・キャンパス別では、平成 21 年度～平成 23 年度では香川キャンパスが低値傾向である。

②学科別での評定の変動

- ・学科（コース）間での回答数のバラツキ（最低数名、最高 100 名以上）が大きく、比較は困難である。

(3) 設問別での動向

①全般的な変動

- ・多少の差違は見られるが（特に前述の項目Ⅲ）、特徴的な傾向の特定は困難である。

②低値（CUT OFF 値、平均 4.0 未満、理論的根拠なし）を示した設問

- ・該当する設問数（オリジナル設問は除く）は、平成 21 年度は 7 設問、平成 22 年度は 4 設問、平成 23 年度は 6 設問、平成 24 年度は 6 設問で大きな変動はない。
- ・特徴的、経年的（4 年連続）に低値が認められた 4 設題（低値順、各年度とも同順位）

＊「保健センターは利用しやすかったですか」

（平成 21 年度 3.34、平成 22 年度 3.42、平成 23 年度 3.42、平成 24 年度 3.40）

＊「クラブやサークル活動は参加しやすかったですか」

(平成 21 年度 3.61、平成 22 年度 3.69、平成 23 年度 3.72、平成 24 年度 3.69)

* 「体育施設は充実していましたか」

(平成 21 年度 3.74、平成 22 年度 3.85、平成 23 年度 3.73、平成 24 年度 3.88)

* 「経済支援（奨学金等）の体制は整っていましたか」

(平成 21 年度 3.77、平成 22 年度 3.88、平成 23 年度 3.88、平成 24 年度 3.88)

この 4 設問項目は、他の設問項目と比べて、回答者の「個別性」・「特性」・「関係性」など個人の「属性」に大きく影響を受ける設問項目である。すなわち、「関わる、関わらない」の程度に差違が生じやすい設問の特性を有しており、その判断には慎重さが求められる。

しかしながら、個人属性に影響（関与）されやすい、この 4 項目の結果が本学の弱点、改善点を表現（示唆）しているという視点（立場）から捉えれば、更に何らかの方法での詳細な分析の必要性がある。すなわち、近年に取り上げられている、学生の心理的・精神的問題の増加とその顕在性、学生の仲間作りへの無関心さ（稀薄さ、苦手さ）、社会（家庭）における経済的負担の増加、大学生生活の不活発さ（狭小さ）など、大学（大学生）を取り巻く現況を包括的に捉える上では、何らかの対応の必要性を感じる。

(4) 設問に関して

①設問内容

- ・これらの設問内容を通して、また 4 年間の経年的（継続的）な調査によって、「卒業生」の満足度評価の概要が明確になった。
- ・今後の調査継続の必要性の可否と共に、より詳細な分析が必要と判断されれば、設問項目の追加、或いは設問形式（様式）の変更などが要請される。

②評価尺度

- ・評価尺度である現「リッカート尺度」は、特に問題はないと考える。ただし、質問内容に変更がある場合には、尺度にも考慮する必要性がある。

6-3 今後の検討

4 年間の経年的（連続的）な動向の概要に触れてきた。ここでは、その詳細にまで触れることは出来ないが、今後の検討に必要な事項と対応（選択肢）を提案する。なお、各選択肢の中で、現時点で適当であると考えられるものを提示する（*）。

(1) 今後の継続的な調査の必要性（選択肢）

- ・この 3 年間の調査で概要の把握は可能であったので調査は中止する。
- * ・更に同じ内容（項目）で調査を継続する（一部の変更、追加を考慮）。
- ・詳細に分析する必要性があり、内容（項目）を変更（追加）して調査を継続する。

(2) 公表の方法（選択肢）

- ・学内に限って公表する。
- * ・大学案内（ホームページ）で学外にも公表する。
- ・他の手段も利用して学外にも公表する。
- ・その他の手段。

(3) 2. 3) ②の 4 設問項目への対応（選択肢）

- ・ 特に対応（手段）の必要性はない。
- * ・ 対応の必要性がある。関連部署に対しての報告を行う（本部会の役割内）。
 - ・ 上記の報告に対する当該関係部署からの報告を受ける。
 - ・ 上記に対する報告を受け、関連部署に対して具体的な提言を行う。
 - ・ その他の積極的対応（手段）。

(4) 本調査の意義と限界

- ・ 再度、本調査の実施意義、特に結果の活用法を明確にする。
- ・ 本調査によって把握できる範囲の限界を知る。

6-4 終わりに

以上、簡単ではあるが4年間の本調査の（一応）の総括を提示した。次年度以降の本調査の改善と継続、また学生生活の改善、充実に取り組むための対応策（手段）を考える上での問題提起の一つとして生かされれば幸いである。

7. おわりに

平成19年12月のFD研究部会発足時より、FD研究部会ではFD活動を授業改善活動と認識し、授業改善の取組として、前章までで述べた4つの項目についての活動を推進してきた。

本年度は、授業評価アンケートの一部ハイブリッド化を推進したが、実施に当たって、まだ改良すべき課題が見えてきたことも事実である。また将来、アンケート入力を電子化することによって、現在無記名である学生のIDを取得できることとなり、出席状況などとリンクした様々な分析が行える可能性が期待される。来年度以降、関係各位からご意見、アドバイスをいただきながら、FD研究部会において検討を行い、FD活動がより推進されるよう支援を進めていきたい。

8. 用語解説

【SPOD】

四国地区大学教職員能力開発ネットワーク（Shikoku Professional and Organizational Development Network in Higher Education）の頭文字をとって「SPOD」と呼ばれている。SPODは、四国地区の大学及び高等専門学校の連携・協働によって、地区内のFD/SD事業の推進と大学等の教育力の向上を図ることを目的として、平成20年度の文部科学省戦略的大学連携支援事業としてスタートし、現在、四国地区にある33全ての高等教育機関が加盟するネットワーク。

【ファカルティ・ディベロップメント（FD）】

教員が授業内容・方法を改善し向上させるための組織的な取組の総称。具体的な例としては、教員相互の授業参観の実施、授業方法についての研究会の実施、新任教員のための研修会の実施などを挙げることができる。

【スタッフ・ディベロップメント（SD）】

事務職員や技術職員など職員を対象とした、管理運営や教育・研究支援までを含めた資質向上のための組織的な取組を指す。

【ディプロマ・ポリシー（DP）】

卒業認定・学位授与に関する基本的な方針。学部・学科が教育活動の成果として学生に保証する最低限の基本的な資質・養成する人材像と教育研究上の目的を記したもの。

【カリキュラム・ポリシー（CP）】

教育課程編成・実施の方針。DPを保証する体系性と整合性が担保されたカリキュラムを記したもの。

【アドミッション・ポリシー（AP）】

入学者受け入れ方針。各大学・学部がDPを踏まえ、どのような教育活動を行い、また、どのような学生を求めているのかなどの考え方をまとめたもの。

【ルーブリック評価】

いくつかの評価項目について、各レベルの典型となる状況の評価尺度として記述し、学習者のパフォーマンスを評価するもの。通常、表のかたちで示され、判定結果を丸で囲うようにして採点する。学習プロセスの中の場面を切り出し、それぞれに評価項目を設定する。

【ポートフォリオ】

大学等の教員が自分の授業や指導の記録である「教育業績ファイル」を意味するティーチング・ポートフォリオと学生が学習過程ならびに各種の学習成果を長期にわたって収集したものを指すラーニング・ポートフォリオがある。

【IR（機関調査）】

機関の計画策定、政策形成、意思決定を支援するための情報を提供する目的で、高等教育機関の内部で行われる実践志向の強い組織的な調査分析活動。

資料編

1	FD 研究部会	12
1-1	FD 研究部会会議	
1-2	FD 研究部会委員一覧表	
1-3	FD 研究部会議事録【別 CD 資料】	
2	研修会・講演会	14
2-1	研修会・講演会実施一覧(学内)	
2-2	研修会・講演会参加一覧	
2-3	T-SPOD 会議参加一覧	
2-4	研修会・講演会プログラム及びアンケート【別 CD 資料】	
3	全学授業評価アンケート	18
3-1	後期授業評価アンケート	
3-2	平成 24(2012)年度 後期・学部全体	
3-3	平成 24(2012)年度 後期・短期大学部全体	
3-4	平成 24(2012)年度 後期・大学全体	
3-5	「学生による授業評価アンケート」実施要領	
3-6	ハイブリッド(集計データ電子)化に関するお願い	
3-7	アクションプランシート様式	
3-8	アクションプランシートデータ【別 CD 資料】	
4	研究授業	25
4-1	平成 24(2012)年度 前期 研究授業一覧	
4-2	平成 24(2012)年度 後期 研究授業一覧	
4-3	研究授業(教員相互の授業参観)記録様式	
4-4	研究授業(目標設定型)記録様式	
4-5	研究授業の記録【別 CD 資料】	
5	卒業生満足度評価アンケート	29
5-1	卒業生満足度評価アンケート	
5-2	平成 24(2012)年度 学部全体	
5-3	平成 24(2012)年度 短期大学部全体	
5-4	平成 24(2012)年度 大学全体	
5-5	平成 24(2012)年度 大学院全体	
5-6	平成 24(2012)年度 専攻科全体	
5-7	実施についての依頼	
5-8	平成 24(2012)年度 学部学科別データ【別 CD 資料】	

平成24年度FD研究部会会議

回数	日時	会場
第43回FD研究部会	平成24年4月27日(金) 13:30~15:00	徳島キャンパス 25号館11階会議室
第44回FD研究部会	平成24年5月28日(月) 16:30~17:30	テレビ会議
第45回FD研究部会	平成24年6月28日(木) 15:00~16:30	テレビ会議
第46回FD研究部会	平成24年8月1日(水) 10:30~11:30	徳島キャンパス 25号館11階会議室
第47回FD研究部会	平成24年9月10日(月) 10:00~11:30	徳島キャンパス 25号館11階会議室
第48回FD研究部会	平成24年10月25日(木) 16:30~18:00	テレビ会議
第49回FD研究部会	平成24年11月15日(木) 16:30~17:30	テレビ会議
第50回FD研究部会	平成24年12月26日(水) 14:30~16:00	徳島キャンパス 25号館11階会議室
第51回FD研究部会	平成25年1月17日(木) 16:30~18:00	テレビ会議
第52回FD研究部会	平成25年2月25日(月) 10:30~12:00	香川キャンパス 管理棟2階学園長室

平成24年度 F D研究部会委員一覧表

	氏名	所属
部会長	古田 昇	文学
部員	秋田 昌彦	薬学
〃	橋田 誠一	人間生活
〃	小嶋 裕	保健福祉(徳島 C)
〃	橋本 誠志	総合政策
〃	千葉 さやか	音楽
〃	林 向達	短大
〃	田元 浩一	香川薬学
〃	大倉 良昭	保健福祉(香川 C)
〃	小林 郁典	理工
〃	箕田 康一	一般総合
事務局	織田 博	教育・研究支援 G(香川 C)
〃	新見 延安	教育・研究支援 G(徳島 C)
〃	藤本 浩美	教育・研究支援 G(徳島 C)

研修会・講演会実施一覧(学内)

(1) 第1回FD研修会・講演会

日 時	平成 24 年 9 月 14 日 (金) 15 : 00 ~ 17 : 00
演 題	SPOD 研修プログラム 講演「マンネリ化しない公開授業の秘訣」 —公開授業の効果的実施方法—
講 師	川野 卓二 (徳島大学教授 大学開放実践センター)
場 所	徳島キャンパス 25 号館 4 階会議室 23 名参加 香川キャンパス 図書館 3 階 AV ホール 18 名参加 (徳島キャンパスから香川キャンパスに遠隔配信)

(2) 第2回FD研修会・講演会

日 時	平成 25 年 3 月 21 日 (木) 14 : 30 ~ 17 : 00
演 題	講演「学生実態をめぐる問いと学習成果へのアプローチ」 —立命館大学の教学 I R を事例に— ミニワークショップ「教学 I R におけるリサーチ・クエスチョンの導き方—経験から問いを立てる—」
講 師	鳥居 朋子 (立命館大学教授 教育開発推進機構) 川那部隆司 (立命館大学講師 教育開発推進機構)
場 所	徳島キャンパス 25 号館 4 階スタジオ型講義室 37 名参加 香川キャンパス 図書館 5 階 講義室 1 19 名参加 (徳島キャンパスから香川キャンパスに遠隔配信)

平成24年度 研修会・講演会参加一覧

(SPOD研修会・フォーラム等参加)

開催日	名称	主催者	開催場所	参加者
平成24年 5月18日 (金)	講師養成研修 S D	四国地区大学教 職員能力開発ネ 트워크(SPOD) 愛媛大学	愛媛大学	庶務・渉外 グループ 藤巻 晃
平成24 6月7(木) ～8日(金)	大学人、社会人としての 基礎力養成プログラム 研修(レベルⅢ) S D	四国地区大学教 職員能力開発ネ 트워크(SPOD) 愛媛大学	愛媛大学	学務・入試 グループ 郡 通子
平成24年 6月15日 (金)	SPODプログラム T-002 【遠隔配信】 効果的なグループワー クの技法	徳島大学大学教 育委員会・FD専 門委員会、SPOD	徳島大学	徳島キャンパス 教職員7名 香川キャンパス 教職員18名
平成24年 8月22日 (水)～24 日(金)	SPODフォーラム 2012	徳島大学 四国地区大学教 職員能力開発ネ 트워크(SPOD)	徳島大学	★徳島キャンパス 人間生活学部 犬伏 知子 小川 直子 黒澤 亮輔 近藤 美樹 山本 真弓 薬学部 宗野 真和 庶務渉外グループ 藤巻 晃 学生支援グループ 吉野 達也 教育・研究支援グ ループ 中山 多佳子 新見 延安 藤本 浩美 ★香川キャンパス 理工学部 加治 芳雄 大倉 良昭

開催日	名称	主催者	開催場所	参加者
平成 24 年 8 月 22 日 (水) ~ 24 日 (金)	S P O D フォーラム 2 0 1 2	徳島大学 四国地区大学 教職員能力開発 ネットワーク (SPOD) 愛媛大学	徳島大学	妹尾 尚一郎 小林 郁典 香川薬学部 代田 修 高橋 知子 黒澤 良輔 文学部 古田 昇 庶務・渉外グルー プ 遠藤真由美 三宅 幸 川西 貴子 高月 明香 国際交流グループ 篠田 裕 学務入試グループ 近藤 陽子 学生支援グループ 橋田 歩 教育・研究支援グ ループ 織田 博 鎌倉 法子 以上 28 名
平成 24 年 9 月 3 日 (月)	SPOD プログラム I -014 【遠隔配信】 ループリック評価入門	四国地区教職員 能力開発ネットワーク (SPOD)	愛媛大学	徳島キャンパス 教職員 16 名 香川キャンパス教 職員 12 名
平成 24 年 9 月 14 日 (金)	第 1 回 FD 研修会. 講演会 「マンネリ化しない公 開授業の秘訣」	徳島文理大学 FD 研究部会	徳島文理大 徳島キャン パス 【香川キャンパ ス遠隔配信】	徳島キャンパス 教職員 23 名 香川キャンパス 教職員 18 名
平成 25 年 1 月 17 日 (木)	SPOD プログラム I-003 【遠隔配信】 学生の授業時間外学習 を促すシラバス作成法	四国地区教職員 能力開発ネットワーク (SPOD)	徳島文理大 徳島・香 川キャン パス	徳島キャンパス 教職員 34 名 香川キャンパス教 職員 36 名

開催日	名称	主催者	開催場所	参加者
平成 25 年 1 月 6 日 (金)	大学教育カンファレンス in 徳島	徳島大学 大学 教育委員会・F D 専門委員会 S P O D	徳島大学	理工学部 小林 郁典 文学部 古田 昇 学生支援グループ 毛利 久康 教育・研究支援グループ 新見 延安
平成 25 年 3 月 21 日 (木)	第 2 回 FD 研修会. 講演会 「学生実態をめぐる問 いと学習成果へのアプ ローチ」	徳島文理大学 F D 研究部会	徳島文理大 徳島キャンパス 【香川キャンパ ス遠隔配信】	徳島キャンパス 教職員 37 名 香川キャンパス 教職員 19 名
平成 24 年 2 月 23 日 (土) ~ 24 (日)	2012 年度 第 18 回 FD フォーラム	公益財団法人 大学コンソーシ アム京都	立命館大学	文学部 古田 昇
平成 25 年 3 月 15 日 (金)	愛媛大学教育改革シン ポジウム	四国地区大学教 職員能力開発ネ ットワーク (SPOD)	愛媛大学	文学部 古田 昇 理工学部 小林 郁典
平成 25 年 3 月 29 日 (金)	平成 24 年度「四国地区 大学教員能力開発ネッ トワーク」総会及び F D / S D 分科会	四国地区大学教 職員能力開発 ネットワーク (SPOD)	愛媛大学	教育・研究支援グ ループ 新見 延安

2-3

平成 2 4 年度 T-SPOD 会議参加一覧

開催日	名称	主催者	開催場所	参加者
平成 24 年 5 月 10 日 (木)	第 1 回 T-SPOD 会議	T-SPOD	徳島大学開放実践 センター	教育・研究支援 グループ 新見 延安
平成 24 年 9 月 27 日 (木)	第 2 回 T-SPOD 会議	T-SPOD	徳島大学開放実践 センター	教育・研究支援 グループ 藤本 浩美
平成 25 年 2 月 21 日 (木)	第 3 回 T-SPOD 会議	T-SPOD	徳島大学開放実践 センター	教育・研究支援 グループ 新見 延安

3-1

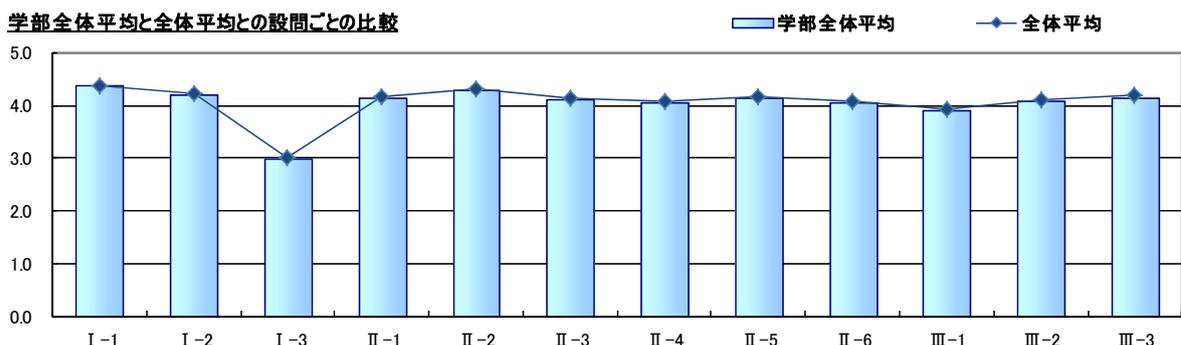
平成 24(2012)年度 後期授業評価アンケート

実施期間	平成 25 年 1 月 8 日 (火) ~1 月 23 日 (水)
実施科目・履修者数	623 科目 27,888 回答者数 22,283 回答率 79.9%
アクションプランシート 記入期間	平成 25 年 3 月 4 日 (月) ~3 月 15 日 (金)
アクションプランシート 記載状況	89.7% (徳島 87.5%、香川 93.0%)

集計単位	学部全体	履修者数	25,131
		回答者数	20,025

I. あなたの授業の取り組みについて									
No.	設問文	当集計平均点	上段: 回答数/下段: 回答率(%)					有効回答	無効回答
			そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらでもない	どちらかといえばそう思わない	そう思わない		
1	あなたはこの授業にまじめに出席しましたか	4.39	10,933 54.7%	6,662 33.3%	1,836 9.2%	430 2.2%	121 0.6%	19,982	43
2	あなたはこの授業を理解しようと努めましたか	4.22	7,863 39.3%	9,272 46.4%	2,377 11.9%	381 1.9%	107 0.5%	20,000	25
3	あなたはこの授業に関して、予習復習を行いましたか	2.99	2,399 12.0%	4,730 23.8%	6,349 31.9%	3,138 15.8%	3,293 16.5%	19,909	116
II. 授業内容及び方法について									
No.	設問文	当集計平均点	上段: 回答数/下段: 回答率(%)					有効回答	無効回答
			そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらでもない	どちらかといえばそう思わない	そう思わない		
1	授業内容は、シラバスにそっていたと思いますか	4.16	7,825 39.2%	8,112 40.6%	3,588 18.0%	273 1.4%	168 0.8%	19,966	59
2	授業に対する教員の熱意は感じられましたか	4.31	9,742 48.7%	7,469 37.4%	2,231 11.2%	377 1.9%	178 0.9%	19,997	28
3	教員の説明は聞き取りやすかったですか	4.11	8,378 41.9%	7,301 36.5%	2,926 14.6%	973 4.9%	414 2.1%	19,992	33
4	教員の説明はわかりやすかったですか	4.05	7,783 39.0%	7,397 37.0%	3,274 16.4%	1,061 5.3%	462 2.3%	19,977	48
5	教科書や教材(プリントなど)は適切でしたか	4.15	8,053 40.4%	7,801 39.1%	3,277 16.4%	565 2.8%	243 1.2%	19,939	86
6	板書や視聴覚教材などは効果的に利用されていましたか	4.07	7,787 39.0%	7,413 37.2%	3,517 17.6%	830 4.2%	400 2.0%	19,947	78
III. 授業全体について									
No.	設問文	当集計平均点	上段: 回答数/下段: 回答率(%)					有効回答	無効回答
			そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらでもない	どちらかといえばそう思わない	そう思わない		
1	この授業の内容は理解できましたか	3.91	5,501 27.6%	9,090 45.6%	3,856 19.3%	1,077 5.4%	424 2.1%	19,948	77
2	この授業は知識・技術の習得につながりましたか	4.09	7,185 36.0%	8,575 43.0%	3,251 16.3%	623 3.1%	309 1.5%	19,943	82
3	総合的に見て、この授業はよかったですか	4.17	8,328 41.8%	7,775 39.1%	2,886 14.5%	593 3.0%	320 1.6%	19,902	123
IV. 各学部用									
No.	設問文	当集計平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答
			5	4	3	2	1		
1									
2									
3									

学部全体平均と全体平均との設問ごとの比較

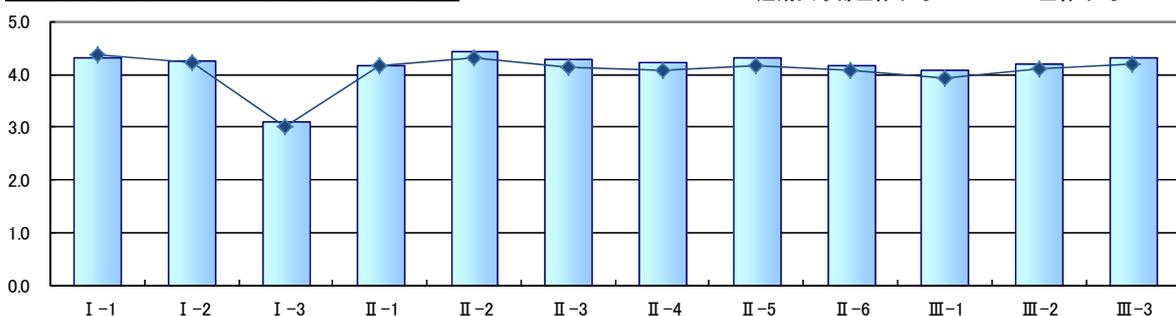


集計単位	短期大学部全体
------	---------

履修者数	2,757
回答者数	2,258

I. あなたの授業の取り組みについて									
No.	設問文	当集計平均点	上段: 回答数/下段: 回答率(%)					有効回答	無効回答
			そう思う	どちらかといえば そう思う	どちらでもない	どちらかといえば そう思わない	そう 思わない		
1	あなたはこの授業にまじめに出席しましたか	4.34	1,157 51.3%	798 35.4%	229 10.1%	57 2.5%	16 0.7%	2,257	1
2	あなたはこの授業を理解しようと努めましたか	4.27	927 41.1%	1,063 47.2%	223 9.9%	33 1.5%	8 0.4%	2,254	4
3	あなたはこの授業に関して、予習復習を行いましたか	3.12	271 12.0%	576 25.6%	796 35.3%	368 16.3%	242 10.7%	2,253	5
II. 授業内容及び方法について									
No.	設問文	当集計平均点	上段: 回答数/下段: 回答率(%)					有効回答	無効回答
			そう思う	どちらかといえば そう思う	どちらでもない	どちらかといえば そう思わない	そう 思わない		
1	授業内容は、シラバスにそっていたと思いますか	4.18	888 39.5%	931 41.4%	398 17.7%	23 1.0%	10 0.4%	2,250	8
2	授業に対する教員の熱意は感じられましたか	4.45	1,277 56.6%	747 33.1%	201 8.9%	20 0.9%	10 0.4%	2,255	3
3	教員の説明は聞き取りやすかったですか	4.31	1,128 50.0%	791 35.1%	258 11.4%	59 2.6%	20 0.9%	2,256	2
4	教員の説明はわかりやすかったですか	4.25	1,053 46.8%	827 36.7%	279 12.4%	60 2.7%	33 1.5%	2,252	6
5	教科書や教材(プリントなど)は適切でしたか	4.33	1,123 49.9%	804 35.7%	279 12.4%	35 1.6%	11 0.5%	2,252	6
6	板書や視聴覚教材などは効果的に利用されていましたか	4.20	981 43.7%	849 37.8%	314 14.0%	77 3.4%	24 1.1%	2,245	13
III. 授業全体について									
No.	設問文	当集計平均点	上段: 回答数/下段: 回答率(%)					有効回答	無効回答
			そう思う	どちらかといえば そう思う	どちらでもない	どちらかといえば そう思わない	そう 思わない		
1	この授業の内容は理解できましたか	4.10	764 33.9%	1,079 47.9%	314 13.9%	66 2.9%	30 1.3%	2,253	5
2	この授業は知識・技術の習得につながりましたか	4.22	937 41.6%	961 42.7%	288 12.8%	42 1.9%	23 1.0%	2,251	7
3	総合的に見て、この授業はよかったですか	4.34	1,130 50.3%	836 37.2%	228 10.1%	29 1.3%	25 1.1%	2,248	10
IV. 各学部用									
No.	設問文	当集計平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答
			5	4	3	2	1		
1									
2									
3									

短期大学部全体平均と全体平均との設問ごとの比較

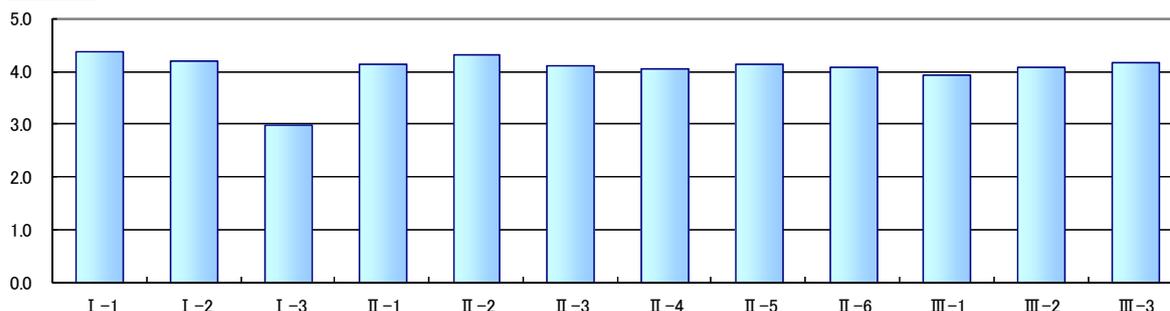


履修者数	27,888
回答者数	22,283

I. あなたの授業の取り組みについて									
No.	設問文	当集計平均点	上段: 回答数/下段: 回答率(%)					有効回答	無効回答
			そう思う	どちらかといえば そう思う	どちらでもない	どちらかといえば そう思わない	そう 思わない		
1	あなたはこの授業にまじめに出席しましたか	4.39	12,090 54.4%	7,460 33.5%	2,065 9.3%	487 2.2%	137 0.6%	22,239	44
2	あなたはこの授業を理解しようと努めましたか	4.23	8,790 39.5%	10,335 46.4%	2,600 11.7%	414 1.9%	115 0.5%	22,254	29
3	あなたはこの授業に関して、予習復習を行いましたか	3.00	2,670 12.0%	5,306 23.9%	7,145 32.2%	3,506 15.8%	3,535 16.0%	22,162	121
II. 授業内容及び方法について									
No.	設問文	当集計平均点	上段: 回答数/下段: 回答率(%)					有効回答	無効回答
			そう思う	どちらか といえば そう思う	どちらでも ない	どちらか といえば そう 思わない	そう 思わない		
1	授業内容は、シラバスにそっていたと思いますか	4.16	8,713 39.2%	9,043 40.7%	3,986 17.9%	296 1.3%	178 0.8%	22,216	67
2	授業に対する教員の熱意は感じられましたか	4.32	11,019 49.5%	8,216 36.9%	2,432 10.9%	397 1.8%	188 0.8%	22,252	31
3	教員の説明は聞き取りやすかったですか	4.13	9,506 42.7%	8,092 36.4%	3,184 14.3%	1,032 4.6%	434 2.0%	22,248	35
4	教員の説明はわかりやすかったですか	4.07	8,836 39.7%	8,224 37.0%	3,553 16.0%	1,121 5.0%	495 2.2%	22,229	54
5	教科書や教材(プリントなど)は適切でしたか	4.16	9,176 41.4%	8,605 38.8%	3,556 16.0%	600 2.7%	254 1.1%	22,191	92
6	板書や視聴覚教材などは効果的に利用されていましたか	4.08	8,768 39.5%	8,262 37.2%	3,831 17.3%	907 4.1%	424 1.9%	22,192	91
III. 授業全体について									
No.	設問文	当集計平均点	上段: 回答数/下段: 回答率(%)					有効回答	無効回答
			そう思う	どちらか といえば そう思う	どちらでも ない	どちらか といえば そう 思わない	そう 思わない		
1	この授業の内容は理解できましたか	3.93	6,265 28.2%	10,169 45.8%	4,170 18.8%	1,143 5.1%	454 2.0%	22,201	82
2	この授業は知識・技術の習得につながりましたか	4.10	8,122 36.6%	9,536 43.0%	3,539 15.9%	665 3.0%	332 1.5%	22,194	89
3	総合的に見て、この授業はよかったですか	4.18	9,458 42.7%	8,611 38.9%	3,114 14.1%	622 2.8%	345 1.6%	22,150	133
IV. 各学部用									
No.	設問文	当集計平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答
			5	4	3	2	1		
1									
2									
3									

全体平均

□全体平均



「学生による授業評価アンケート」実施要領

平成25年1月

徳島文理大学・短期大学部FD研究部会

上記のアンケートの実施について、下記の要領でご協力くださるようお願いいたします。

記

1. アンケートは授業担当者が配布し、趣旨・記入方法等を説明してください。
2. 回収と提出は、原則として授業担当者以外(例:各クラス委員、受講代表者など)が行ってください。なお、回収後、直ちに下記の提出場所に提出してください。
3. アンケート実施期間
平成25年1月8日(火)～1月23日(水)
4. 提出期限:各アンケート実施当日
5. 提出場所:徳島キャンパス 1号館1階学務入試グループカウンターまたは
25号館(メディアセンター)6階 教育・研究支援
グループ
香川キャンパス 各学部事務室

【記入方法及び注意事項】

1. 他学部の学生が履修している科目がありますが、区別せずに実施してください。
2. アンケート実施の趣旨を以下のようにご説明ください。
「授業アンケートは、授業の改善に役立てるために行います。そのため、一人ひとりの学生には、誠意をもってきちんと回答することが期待されています。」
3. マークシートを学生1名につき1枚配布してください。
4. マークシートを汚したり、折り曲げたりしないように注意してください。
5. 記入には**HBの鉛筆**または**シャープペンシル**を使用するように指示してください。
6. マークシートの「年度」「所属学部」「学年」「科目コード」を記入し、それぞれ該当する数字をマークするよう指示してください。
「年度」・・・12
「所属学部」・・・学生の所属学部。裏面「学部コード一覧表」参照
「科目コード」・・・封筒ラベル参照
黒板に書くなどして、正確なコードを学生に知らせてください。
7. 回答には**約15分間**かけてください。
8. 回収後は速やかにマークシートを残部も含めすべて封筒に入れてください。
9. その他 何かご不明な点がありましたら下記までご連絡ください。
徳島キャンパス藤本(内線:8664)
香川キャンパス半田(内線:2296)

教 員 各 位

F D 研究部会長 古田 昇

授業評価アンケートのハイブリッド（集計データ電子）化に関するお願い

学生による授業評価アンケートの実施につきましては、ご理解ご協力を賜りありがとうございます。

学生による授業評価アンケートが、授業改善に大いに貢献していることは疑いのないことと教員側では認識しています。しかしながら、授業評価アンケート結果が実際に活用されているにも関わらず、学生からは改善点が明瞭には見えていなかったことも事実と存じます。授業評価アンケートは、見方を変えると、学生の授業に対する要望であり、その要望に対して明確な返答をすることが、学生との信頼関係をさらに強固なものとし、結果としてより良い授業へ進展すると F D 研究部会では結論いたしています。

そこで、より良い授業をおこない、加えて、より良い外部評価を得るために、教員の方々にはアンケート結果に対するアクションプランシート（昨年まではフィードバック）の記入をお願いいたします。

- ① 封筒の中には、アンケート用紙と集計結果表が入っています。
感想の欄は集計されませんので担当の先生でご活用ください。
なお、アンケート用紙は、担当の先生方で 1 年間（平成 26 年 3 月末まで）保管していただき、それ以降は各自で処分してください。
- ② 3 月 1 日（金）に各先生方のメールアドレスに「ログイン ID とパスワード・アクションプランシート作成」のメールが担当業者（教育ソフトウェア）から送られてきます。
- ③ メール到着後から、今回のアンケート集計結果と過去 3 年間のアンケート結果をウェブ上で閲覧でき、過去と比較して分析もできます。
- ④ アンケート結果の閲覧やアクションプランシートの記入は、送られてきた ID → パスワードを入れて、ウェブ上で実行してください。
記入項目は 1 「アンケート結果に対するコメント」
2 「今後の授業に向けて」 です。
- ⑤ アクションプランシート記入日：3 月 4 日（月）～3 月 15 日（金）
なお、詳細は操作マニュアルを参照してください。
（ログイン、集計結果の閲覧・分析、アクションプランシートの記入など）
その他ご不明な点につきましては、お手数ですが、下記の『教育・研究支援グループ』までご連絡をお願いいたします。

徳島キャンパス：新見延安 nobuyasu@tks.bunri-u.ac.jp

香川キャンパス：織田博 hiros_51oda@kgw.bunri-u.ac.jp

3-7 アクションプランシート

アクションプランシート

2011年度後期 水1

科目名 科目A

教員名 教育太郎

項目見出し	コメント
アンケート結果に対するコメント	
今後の授業に向けて	

4-1

平成 24 年度前期 研究授業(教員相互の授業参観)【16 科目】

徳島キャンパス

授業日	曜	講時	学部	学科	科目	授業者	教室
6月8日	金	2	人間生活	心理	文理学	上垣博和	9603
6月11日	月	3	薬学	薬学	物理化学3	堂上美和	24202
6月11日	月	3	総合政策	総合政策	民法ベシク I	橋本誠志	23203
6月13日	水	1	人間生活	食物栄養	生化学 I	加藤有介	23304
6月20日	水	2	保健福祉	理学療法	装具学	田頭勝之	23304
6月25日	月	5	音楽	音楽	実技 A Iピアノ	ジュゼッペ・マリオッティ	マリオッティ研究室
6月26日	火	1	保健福祉	看護	疾病論Ⅲ(消化・内分泌器官系疾病)	田村禎通	3103
7月2日	月	3	人間生活	建築デザイン	住生活論	安箱敏	231107
7月3日	火	3	保健福祉	人間福祉	哲学 A	溝口隆一	9202

香川キャンパス

授業日	曜	講時	学部	学科	科目	授業者	教室
4月5日	水	20:00 21:30	文	日・英・財	宿泊セミナー研修①	中条義輝・下田祐輔・原田耕太郎	3F 研修室
4月6日	木	18:00 19:30	文	日・英・財	宿泊セミナー研修②	中条義輝・下田祐輔・原田耕太郎	3F 研修室
5月16日	水	1	香川薬	薬学・薬科3年	放射線科学	植木正二	視聴覚
5月22日	火	2	香川薬	薬学・薬科4年	薬物治療学2	渡邊正知	221
5月30日	水	1	香川薬	薬学1年	応用生物学B	高橋知子	103
5月31日	木	4	文	日・英・財	地理学A	古田昇	視聴覚
6月7日	木	1	保健福祉	臨床工2年	応用物理学	石原国彦	3341

4-2

平成 24 年度後期 研究授業(教員相互の授業参観)【16 科目】

徳島キャンパス

授業日	曜	講時	学部	学科	科目	授業者	教室
10月24日	水	3	総合政策	総合政策2年	公法ベシックⅡ	古田修一	23203
10月29日	月	5	人間生活	児童2年	保育課程論	北川 明	9704
11月5日	月	1	保健福祉	理学療法3年	日常生活活動学実習	近藤慶承	23504 評価室
11月5日	月	3	短大	言語コミュニケーション1年	TOEIC・英検対策Ⅱ	浜本隆三	25号館5階プレゼンテーション室
11月9日	金	2	人間生活	メディアデザイン2年	生活と情報B	古本奈奈代	25号館4階マルチメディア教室
11月22日	木	5	保健福祉	看護1年	高齢者看護学概論	瀬戸口要子	3103
11月26日	月	1	薬	薬学3年	薬物治療学1	小田真隆	24301
11月26日	月	2	人間生活	人間生活1年	基礎看護技術	近藤春江	1309 看護実習室
12月10日	月	3	音楽学部	音楽学科	実技AⅧピアノ	村崎和子	51007

香川キャンパス

授業日	曜	講時	学部	学科	科目	授業者	教室
10月17日	水	1	香川薬	薬学3年	医薬品情報学	飯原なおみ	121
10月25日	木	2	香川薬	薬学2年	薬理学A	得丸博史	203
11月12日	月	1	文	日本文学2年～	日本文学講読D-Ⅱ	上田穂積	302
11月14日	水	3	保健福祉	診療放射線1年	放射線物理学Ⅰ	伴 隆一	3230
12月11日	火	3	理工	機械創造2年	情報科学概論	河田淳治	エ302・ターミナル室(3)
12月20日	木	3	理工	ナノ物質2年	高分子化学	佐藤一石	10号館7階ゼミ室
1月10日	木	1	香川薬	薬学1年	基礎有機化学Ⅰ	東屋 功	103

研究授業（教員相互の授業参観）記録			
学 部		学 科	
授 業 者		科 目 名 (授 業 形 態)	
授 業 協 力 者		科 目 コ ー ド	
日 時	平成	年	月 日 曜日 講時
対 象 学 生			
授 業 テ ー マ			
研究授業内容自己評価			
研究授業参観者の意見・感想			
授 業 参 観 者 数	名		

研究授業（目標設定型）記録			
学 部		学 科	
実施代表者			
実施日時	平成 年 月 日 ～ 平成 年 月 日		
目標の説明			
対象学年 または科目			
具体的な取組み方法			
結果			
協力教員数	名 (内訳)		

平成 24(2012)年度
卒業生満足度評価アンケート

実施期間	平成 25 年 3 月 15 日 (木) ~ 3 月 17 日 (土)
実施学科・人数	学部・専攻科・研究科、1117 名
回答数・回答率	996 名 89.2%

5-2

2012年度 卒業生満足度評価アンケート集計結果(学部全体)

徳島文理大学

対象者数	955
回答者数	839

I. 記入者について

性別	男性	女性	無効
	321	510	8
	38.3%	60.8%	1.0%

クラブ サークル	体育系	文化系	同好会	その他	所属なし	無効
	177	132	54	39	409	28
	21.1%	15.7%	6.4%	4.6%	48.7%	3.3%

在学中 の住居	自宅	下宿・アパート	学生寮	その他	無効
	352	477	0	1	9
	42.0%	56.9%	0.0%	0.1%	1.1%

卒業後 の進路	会社員	公務員	自営業	進学	未定	無効
	434	126	15	45	161	58
	51.7%	15.0%	1.8%	5.4%	19.2%	6.9%

職種	事務系	技術系	医療福祉系	教職系	その他	無効
	64	58	322	83	218	94
	7.6%	6.9%	38.4%	9.9%	26.0%	11.2%

II. 授業・教育課程について(全体として)

No.	設問文	学部全体 平均点	上段: 回答数/下段: 回答率(%)					有効 回答	無効 回答
			5	4	3	2	1		
1	授業科目は充実していましたか	4.23	307 36.8%	438 52.5%	74 8.9%	11 1.3%	5 0.6%	835	4
2	授業や実習内容はわかりやすかったですか	4.06	225 26.9%	464 55.4%	124 14.8%	20 2.4%	4 0.5%	837	2
3	専門的な知識や技能を身につけることができましたか	4.24	332 39.7%	402 48.0%	82 9.8%	16 1.9%	5 0.6%	837	2
4	教育に対する教員の熱意は感じられましたか	4.30	349 41.8%	395 47.3%	85 10.2%	2 0.2%	4 0.5%	835	4

III. 大学の施設および支援体制について

No.	設問文	学部全体 平均点	上段: 回答数/下段: 回答率(%)					有効 回答	無効 回答
			5	4	3	2	1		
1	科目の履修についての支援は役に立ちましたか	4.12	307 36.7%	366 43.8%	125 15.0%	30 3.6%	8 1.0%	836	3
2	就職(進学)についての支援は役に立ちましたか	3.96	309 37.0%	292 35.0%	153 18.3%	55 6.6%	26 3.1%	835	4
3	保健センターは利用しやすかったですか	3.37	159 19.1%	205 24.6%	307 36.8%	114 13.7%	49 5.9%	834	5
4	体育施設は充実していましたか	3.88	239 28.8%	321 38.6%	210 25.3%	51 6.1%	10 1.2%	831	8
5	図書館は利用しやすかったですか	4.19	352 42.3%	338 40.6%	101 12.1%	30 3.6%	12 1.4%	833	6
6	情報設備やソフトウェアは利用しやすかったですか	3.91	238 28.6%	346 41.5%	194 23.3%	45 5.4%	10 1.2%	833	6
7	授業や実験・実習に必要な設備は整っていましたか	4.17	309 37.0%	392 46.9%	113 13.5%	16 1.9%	6 0.7%	836	3
8	食堂や購買・コンビニは利用しやすかったですか	4.21	382 45.8%	310 37.2%	88 10.6%	41 4.9%	13 1.6%	834	5
9	経済支援(奨学金等)の体制は整っていましたか	3.85	239 28.8%	275 33.1%	287 34.5%	17 2.0%	13 1.6%	831	8

IV. キャンパスライフについて

No.	設問文	学部全体 平均点	上段: 回答数/下段: 回答率(%)					有効 回答	無効 回答
			5	4	3	2	1		
1	キャンパスは清潔でしたか	4.30	390 46.7%	334 40.0%	86 10.3%	22 2.6%	3 0.4%	835	4
2	クラブやサークル活動は参加しやすかったですか	3.72	251 30.1%	228 27.4%	266 31.9%	44 5.3%	44 5.3%	833	6
3	信頼できる教員や友人に出会えましたか	4.56	533 63.9%	242 29.0%	51 6.1%	5 0.6%	3 0.4%	834	5
4	大学周辺の生活環境はよかったですか	4.20	357 42.9%	332 39.9%	106 12.7%	25 3.0%	12 1.4%	832	7

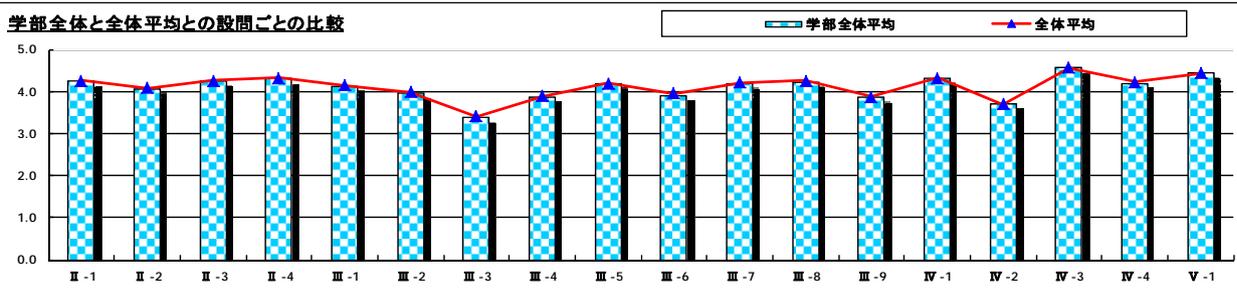
V. 総合評価

No.	設問文	学部全体 平均点	上段: 回答数/下段: 回答率(%)					有効 回答	無効 回答
			5	4	3	2	1		
1	総合的にみて、本学での学生生活はよかったですか	4.44	430 53.0%	312 38.5%	62 7.6%	6 0.7%	1 0.1%	811	28

VI. 各学部質問欄

No.	設問文	学部全体 平均点	上段: 回答数/下段: 回答率(%)					有効 回答	無効 回答
			5	4	3	2	1		
1									
2									
3									

学部全体と全体平均との設問ごとの比較



2012年度 卒業生満足度評価アンケート集計結果(短期大学部全体)

徳島文理大学

対象者数	125
回答者数	121

I. 記入者について

性別	男性	女性	無効
	11	108	2
	9.1%	89.3%	1.7%

クラブ サークル	体育系	文化系	同好会	その他	所属なし	無効
	8	11	2	6	90	4
	6.6%	9.1%	1.7%	5.0%	74.4%	3.3%

在学中 の住居	自宅	下宿・アパート	学生寮	その他	無効
	71	42	5	1	2
	58.7%	34.7%	4.1%	0.8%	1.7%

卒業後の 進路	会社員	公務員	自営業	進学	未定	無効
	63	5	4	12	24	13
	52.1%	4.1%	3.3%	9.9%	19.8%	10.7%

職種	事務系	技術系	医療福祉系	教職系	その他	無効
	15	8	9	25	40	24
	12.4%	6.6%	7.4%	20.7%	33.1%	19.8%

II. 授業・教育課程について(全体として)

No.	設問文	短大全体 平均点	上段: 回答数/下段: 回答率(%)					有効 回答	無効 回答
			5	4	3	2	1		
			1	授業科目は充実していましたか	4.40	61 50.4%	50 41.3%		
2	授業や実習内容はわかりやすかったですか	4.25	49 40.5%	55 45.5%	16 13.2%	0 0.0%	1 0.8%	121	0
3	専門的な知識や技能を身につけることができましたか	4.28	49 40.5%	59 48.8%	12 9.9%	0 0.0%	1 0.8%	121	0
4	教育に対する教員の熱意は感じられましたか	4.42	62 52.1%	47 39.5%	9 7.6%	0 0.0%	1 0.8%	119	2

III. 大学の施設および支援体制について

No.	設問文	短大全体 平均点	上段: 回答数/下段: 回答率(%)					有効 回答	無効 回答
			5	4	3	2	1		
			1	科目の履修についての支援は役に立ちましたか	4.26	53 43.8%	48 39.7%		
2	就職(進学)についての支援は役に立ちましたか	4.14	52 43.3%	42 35.0%	19 15.8%	5 4.2%	2 1.7%	120	1
3	保健センターは利用しやすかったですか	3.59	29 24.0%	25 20.7%	57 47.1%	8 6.6%	2 1.7%	121	0
4	体育施設は充実していましたか	3.93	44 36.7%	28 23.3%	44 36.7%	3 2.5%	1 0.8%	120	1
5	図書館は利用しやすかったですか	4.20	53 43.8%	43 35.5%	22 18.2%	2 1.7%	1 0.8%	121	0
6	情報設備やソフトウェアは利用しやすかったですか	4.18	49 40.5%	48 39.7%	22 18.2%	1 0.8%	1 0.8%	121	0
7	授業や実験・実習に必要な設備は整っていましたか	4.38	63 52.1%	43 35.5%	14 11.6%	0 0.0%	1 0.8%	121	0
8	食堂や購買・コンビニは利用しやすかったですか	4.54	76 62.8%	36 29.8%	8 6.6%	0 0.0%	1 0.8%	121	0
9	経済支援(奨学金等)の体制は整っていましたか	4.02	39 32.2%	50 41.3%	28 23.1%	3 2.5%	1 0.8%	121	0

IV. キャンパスライフについて

No.	設問文	短大全体 平均点	上段: 回答数/下段: 回答率(%)					有効 回答	無効 回答
			5	4	3	2	1		
			1	キャンパスは清潔でしたか	4.49	68 56.7%	45 37.5%		
2	クラブやサークル活動は参加しやすかったですか	3.52	29 24.2%	18 15.0%	62 51.7%	8 6.7%	3 2.5%	120	1
3	信頼できる教員や友人に出会えましたか	4.53	80 66.7%	28 23.3%	9 7.5%	2 1.7%	1 0.8%	120	1
4	大学周辺の生活環境はよかったですか	4.43	69 57.5%	37 30.8%	12 10.0%	0 0.0%	2 1.7%	120	1

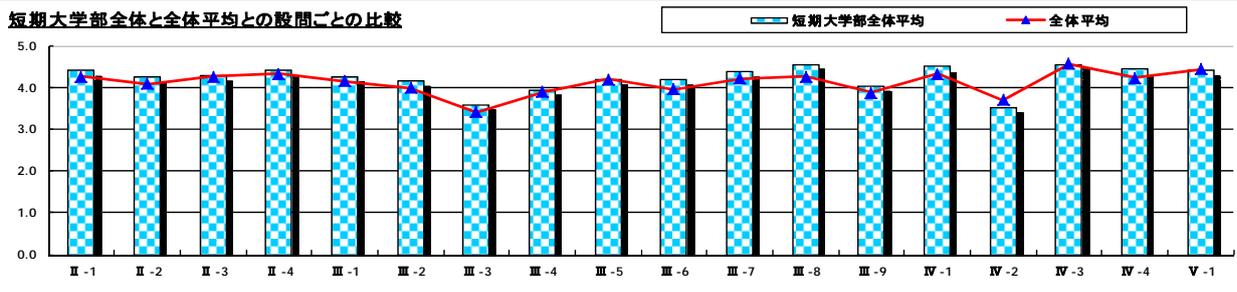
V. 総合評価

No.	設問文	短大全体 平均点	上段: 回答数/下段: 回答率(%)					有効 回答	無効 回答
			5	4	3	2	1		
			1	総合的にみて、本学での学生生活はよかったですか	4.42	67 55.8%	42 35.0%		

VI. 各学部質問欄

No.	設問文	短大全体 平均点	上段: 回答数/下段: 回答率(%)					有効 回答	無効 回答
			5	4	3	2	1		
			1						
2									
3									

短期大学部全体と全体平均との設問ごとの比較



5-4

2012年度 卒業生満足度評価アンケート集計結果(全体)

徳島文理大学

対象者数	1,080
回答者数	960

I. 記入者について

性別	男性	女性	無効
	332 34.6%	618 64.4%	10 1.0%

クラブ サークル	体育系	文化系	同好会	その他	所属なし	無効
	185 19.3%	143 14.9%	56 5.8%	45 4.7%	499 52.0%	32 3.3%

在学中 の住居	自宅	下宿・アパート	学生寮	その他	無効
	423 44.1%	519 54.1%	5 0.5%	2 0.2%	11 1.1%

卒業後 の進路	会社員	公務員	自営業	進学	未定	無効
	497 51.8%	131 13.6%	19 2.0%	57 5.9%	185 19.3%	71 7.4%

職種	事務系	技術系	医療福祉系	教職系	その他	無効
	79 8.2%	66 6.9%	331 34.5%	108 11.3%	258 26.9%	118 12.3%

II. 授業・教育課程について(全体として)

No.	設問文	全体 平均点	上段: 回答数/下段: 回答率 (%)					有効 回答	無効 回答
			5	4	3	2	1		
1	授業科目は充実していましたか	4.26	368 38.5%	488 51.0%	82 8.6%	12 1.3%	6 0.6%	956	4
2	授業や実習内容はわかりやすかったですか	4.08	274 28.6%	519 54.2%	140 14.6%	20 2.1%	5 0.5%	958	2
3	専門的な知識や技能を身につけることができましたか	4.25	381 39.8%	461 48.1%	94 9.8%	16 1.7%	6 0.6%	958	2
4	教育に対する教員の熱意は感じられましたか	4.31	411 43.1%	442 46.3%	94 9.9%	2 0.2%	5 0.5%	954	6

III. 大学の施設および支援体制について

No.	設問文	全体 平均点	上段: 回答数/下段: 回答率 (%)					有効 回答	無効 回答
			5	4	3	2	1		
1	科目の履修についての支援は役に立ちましたか	4.13	360 37.6%	414 43.3%	144 15.0%	30 3.1%	9 0.9%	957	3
2	就職(進学)についての支援は役に立ちましたか	3.98	361 37.8%	334 35.0%	172 18.0%	60 6.3%	28 2.9%	955	5
3	保健センターは利用しやすかったですか	3.40	188 19.7%	230 24.1%	364 38.1%	122 12.8%	51 5.3%	955	5
4	体育施設は充実していましたか	3.88	283 29.8%	349 36.7%	254 26.7%	54 5.7%	11 1.2%	951	9
5	図書館は利用しやすかったですか	4.19	405 42.5%	381 39.9%	123 12.9%	32 3.4%	13 1.4%	954	6
6	情報設備やソフトウェアは利用しやすかったですか	3.94	287 30.1%	394 41.3%	216 22.6%	46 4.8%	11 1.2%	954	6
7	授業や実験・実習に必要な設備は整っていましたか	4.20	372 38.9%	435 45.5%	127 13.3%	16 1.7%	7 0.7%	957	3
8	食堂や購買・コンビニは利用しやすかったですか	4.25	458 48.0%	346 36.2%	96 10.1%	41 4.3%	14 1.5%	955	5
9	経済支援(奨学金等)の体制は整っていましたか	3.88	278 29.2%	325 34.1%	315 33.1%	20 2.1%	14 1.5%	952	8

IV. キャンパスライフについて

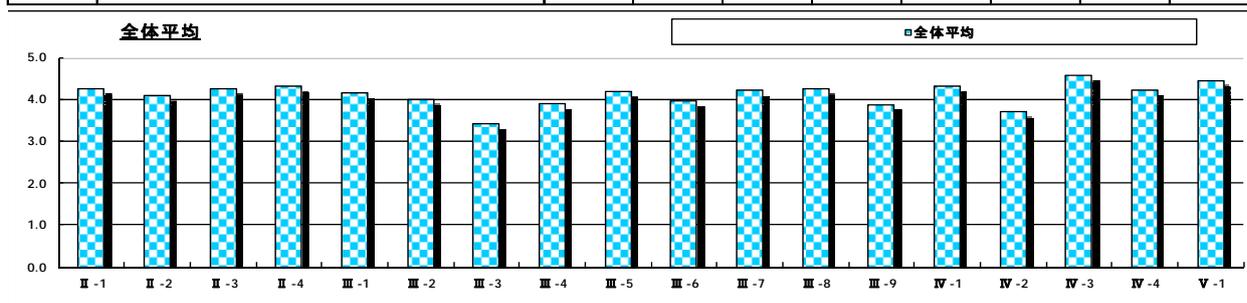
No.	設問文	全体 平均点	上段: 回答数/下段: 回答率 (%)					有効 回答	無効 回答
			5	4	3	2	1		
1	キャンパスは清潔でしたか	4.32	458 48.0%	379 39.7%	92 9.6%	22 2.3%	4 0.4%	955	5
2	クラブやサークル活動は参加しやすかったですか	3.69	280 29.4%	246 25.8%	328 34.4%	52 5.5%	47 4.9%	953	7
3	信頼できる教員や友人に出会えましたか	4.55	613 64.3%	270 28.3%	60 6.3%	7 0.7%	4 0.4%	954	6
4	大学周辺の生活環境はよかったですか	4.23	426 44.7%	369 38.8%	118 12.4%	25 2.6%	14 1.5%	952	8

V. 総合評価

No.	設問文	全体 平均点	上段: 回答数/下段: 回答率 (%)					有効 回答	無効 回答
			5	4	3	2	1		
1	総合的にみて、本学での学生生活はよかったですか	4.43	497 53.4%	354 38.0%	70 7.5%	6 0.6%	4 0.4%	931	29

VI. 各学部質問欄

No.	設問文	全体 平均点	上段: 回答数/下段: 回答率 (%)					有効 回答	無効 回答
			5	4	3	2	1		
1									
2									
3									



対象者数	26
回答者数	25

I. 記入者について

性別	男性	女性	無効
	16 64.0%	9 36.0%	0 0.0%

クラブ サークル	体育系	文化系	同好会	その他	所属なし	無効
	2 8.0%	2 8.0%	1 4.0%	0 0.0%	20 80.0%	0 0.0%

在学中 の住居	自宅	下宿・アパート	学生寮	その他	無効
	9 36.0%	16 64.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%

卒業後の 進路	会社員	公務員	自営業	進学	未定	無効
	14 56.0%	2 8.0%	2 8.0%	1 4.0%	6 24.0%	0 0.0%

職種	事務系	技術系	医療福祉系	教職系	その他	無効
	1 4.0%	4 16.0%	9 36.0%	1 4.0%	8 32.0%	2 8.0%

II. 授業・教育課程について(全体として)

No.	設問文	大学院全体 平均点	上段: 回答数/下段: 回答率(%)					有効 回答	無効 回答
			5	4	3	2	1		
1	授業科目は充実していましたか	4.29	11	10	2	1	0	24	1
			45.8%	41.7%	8.3%	4.2%	0.0%		
2	授業や実習内容はわかりやすかったですか	4.33	11	11	1	1	0	24	1
			45.8%	45.8%	4.2%	4.2%	0.0%		
3	専門的な知識や技能を身につけることができましたか	4.42	13	8	3	0	0	24	1
			54.2%	33.3%	12.5%	0.0%	0.0%		
4	教育に対する教員の熱意は感じられましたか	4.46	14	7	3	0	0	24	1
			58.3%	29.2%	12.5%	0.0%	0.0%		

III. 大学の施設および支援体制について

No.	設問文	大学院全体 平均点	上段: 回答数/下段: 回答率(%)					有効 回答	無効 回答
			5	4	3	2	1		
1	科目の履修についての支援は役に立ちましたか	3.92	11	4	6	2	1	24	1
			45.8%	16.7%	25.0%	8.3%	4.2%		
2	就職(進学)についての支援は役に立ちましたか	3.67	8	7	4	3	2	24	1
			33.3%	29.2%	16.7%	12.5%	8.3%		
3	保健センターは利用しやすかったですか	3.12	4	5	9	4	3	25	0
			16.0%	20.0%	36.0%	16.0%	12.0%		
4	体育施設は充実していましたか	3.33	5	4	11	2	2	24	1
			20.8%	16.7%	45.8%	8.3%	8.3%		
5	図書館は利用しやすかったですか	4.00	10	9	3	2	1	25	0
			40.0%	36.0%	12.0%	8.0%	4.0%		
6	情報設備やソフトウェアは利用しやすかったですか	3.50	7	8	3	2	4	24	1
			29.2%	33.3%	12.5%	8.3%	16.7%		
7	授業や実験・実習に必要な設備は整っていましたか	4.08	10	9	3	1	1	24	1
			41.7%	37.5%	12.5%	4.2%	4.2%		
8	食堂や購買・コンビニは利用しやすかったですか	3.52	6	7	6	6	0	25	0
			24.0%	28.0%	24.0%	24.0%	0.0%		
9	経済支援(奨学金等)の体制は整っていましたか	3.88	9	5	10	1	0	25	0
			36.0%	20.0%	40.0%	4.0%	0.0%		

IV. キャンパスライフについて

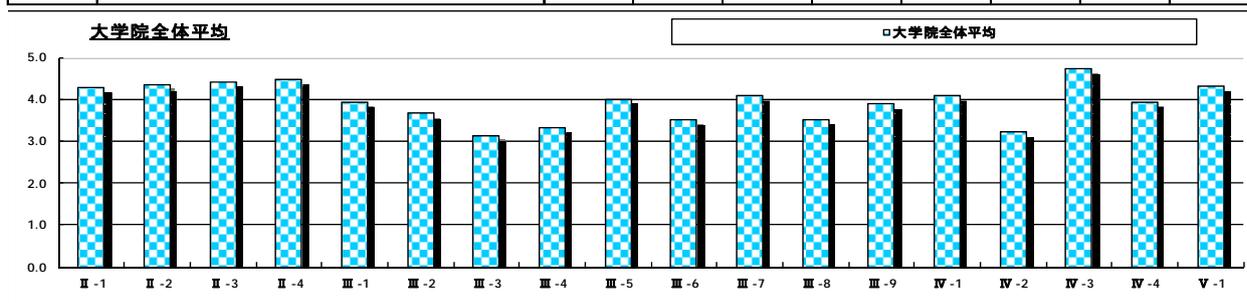
No.	設問文	大学院全体 平均点	上段: 回答数/下段: 回答率(%)					有効 回答	無効 回答
			5	4	3	2	1		
1	キャンパスは清潔でしたか	4.08	9	11	4	0	1	25	0
			36.0%	44.0%	16.0%	0.0%	4.0%		
2	クラブやサークル活動は参加しやすかったですか	3.21	3	3	14	4	0	24	1
			12.5%	12.5%	58.3%	16.7%	0.0%		
3	信頼できる教員や友人に出会えましたか	4.72	19	5	1	0	0	25	0
			76.0%	20.0%	4.0%	0.0%	0.0%		
4	大学周辺の生活環境はよかったですか	3.92	10	9	1	4	1	25	0
			40.0%	36.0%	4.0%	16.0%	4.0%		

V. 総合評価

No.	設問文	大学院全体 平均点	上段: 回答数/下段: 回答率(%)					有効 回答	無効 回答
			5	4	3	2	1		
1	総合的にみて、本学での学生生活はよかったですか	4.32	12	9	4	0	0	25	0
			48.0%	36.0%	16.0%	0.0%	0.0%		

VI. 各学部質問欄

No.	設問文	大学院全体 平均点	上段: 回答数/下段: 回答率(%)					有効 回答	無効 回答
			5	4	3	2	1		
1									
2									
3									



対象者数	11
回答者数	11

I. 記入者について

性別	男性	女性	無効
	1 9.1%	10 90.9%	0 0.0%

クラブ サークル	体育系	文化系	同好会	その他	所属なし	無効
	0 0.0%	1 9.1%	0 0.0%	0 0.0%	10 90.9%	0 0.0%

在学中 の住居	自宅	下宿・アパート	学生寮	その他	無効
	3 27.3%	8 72.7%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%

卒業後の 進路	会社員	公務員	自営業	進学	未定	無効
	5 45.5%	2 18.2%	1 9.1%	0 0.0%	3 27.3%	0 0.0%

職種	事務系	技術系	医療福祉系	教職系	その他	無効
	0 0.0%	1 9.1%	7 63.6%	0 0.0%	2 18.2%	1 9.1%

II. 授業・教育課程について(全体として)

No.	設問文	専攻科全体 平均点	上段: 回答数/下段: 回答率(%)					有効 回答	無効 回答
			5	4	3	2	1		
1	授業科目は充実していましたか	4.18	4 36.4%	6 54.5%	0 0.0%	1 9.1%	0 0.0%	11	0
2	授業や実習内容はわかりやすかったですか	4.55	7 63.6%	3 27.3%	1 9.1%	0 0.0%	0 0.0%	11	0
3	専門的な知識や技能を身につけることができましたか	4.64	7 63.6%	4 36.4%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	11	0
4	教育に対する教員の熱意は感じられましたか	4.82	9 81.8%	2 18.2%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	11	0

III. 大学の施設および支援体制について

No.	設問文	専攻科全体 平均点	上段: 回答数/下段: 回答率(%)					有効 回答	無効 回答
			5	4	3	2	1		
1	科目の履修についての支援は役に立ちましたか	4.27	5 45.5%	4 36.4%	2 18.2%	0 0.0%	0 0.0%	11	0
2	就職(進学)についての支援は役に立ちましたか	3.73	4 36.4%	2 18.2%	4 36.4%	0 0.0%	1 9.1%	11	0
3	保健センターは利用しやすかったですか	3.64	2 18.2%	4 36.4%	4 36.4%	1 9.1%	0 0.0%	11	0
4	体育施設は充実していましたか	3.64	3 27.3%	2 18.2%	5 45.5%	1 9.1%	0 0.0%	11	0
5	図書館は利用しやすかったですか	4.00	4 36.4%	5 45.5%	1 9.1%	0 0.0%	1 9.1%	11	0
6	情報設備やソフトウェアは利用しやすかったですか	3.73	1 9.1%	6 54.5%	4 36.4%	0 0.0%	0 0.0%	11	0
7	授業や実験・実習に必要な設備は整っていましたか	4.18	3 27.3%	7 63.6%	1 9.1%	0 0.0%	0 0.0%	11	0
8	食堂や購買・コンビニは利用しやすかったですか	4.18	4 36.4%	5 45.5%	2 18.2%	0 0.0%	0 0.0%	11	0
9	経済支援(奨学金等)の体制は整っていましたか	3.73	3 27.3%	3 27.3%	4 36.4%	1 9.1%	0 0.0%	11	0

IV. キャンパスライフについて

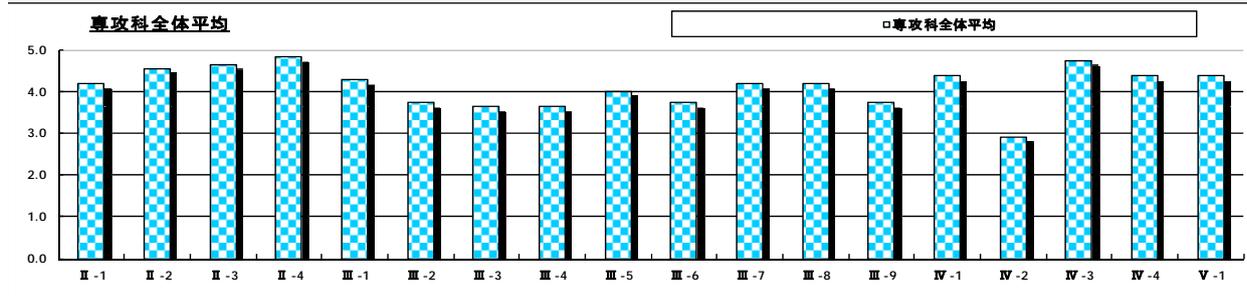
No.	設問文	専攻科全体 平均点	上段: 回答数/下段: 回答率(%)					有効 回答	無効 回答
			5	4	3	2	1		
1	キャンパスは清潔でしたか	4.36	5 45.5%	5 45.5%	1 9.1%	0 0.0%	0 0.0%	11	0
2	クラブやサークル活動は参加しやすかったですか	2.91	1 9.1%	0 0.0%	8 72.7%	1 9.1%	1 9.1%	11	0
3	信頼できる教員や友人に出会えましたか	4.73	8 72.7%	3 27.3%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	11	0
4	大学周辺の生活環境はよかったですか	4.36	5 45.5%	5 45.5%	1 9.1%	0 0.0%	0 0.0%	11	0

V. 総合評価

No.	設問文	専攻科全体 平均点	上段: 回答数/下段: 回答率(%)					有効 回答	無効 回答
			5	4	3	2	1		
1	総合的にみて、本学での学生生活はよかったですか	4.36	5 45.5%	5 45.5%	1 9.1%	0 0.0%	0 0.0%	11	0

VI. 各学部質問欄

No.	設問文	専攻科全体 平均点	上段: 回答数/下段: 回答率(%)					有効 回答	無効 回答
			5	4	3	2	1		
1									
2									
3									



各大学院・研究科長 殿

各専攻科長 殿

各学部・学科長 殿

徳島文理大学・短期大学部FD研究部会

「卒業生満足度評価アンケート」の実施について(ご依頼)

上記のアンケート実施について、下記の要領でご協力くださるようお願いいたします。

記

1. 卒業式当日の実施を原則としますが、その前後で各大学院・研究科、専攻科、学部・学科の都合の良い日に実施して下さって結構です。
2. アンケート実施の趣旨を以下のようにご説明ください。
「この調査は、卒業生の皆さんの本学の教育内容や施設、学園生活などに対する満足度を調査し、本学の教育の充実と改善に資するために行います。そのため、一人ひとりの卒業生には、誠意をもってきちんと回答することが期待されています。」
3. マークシートを卒業生1名につき1枚配布してください。
4. マークシートを汚したり、折り曲げたりしないように注意してください。
5. 記入には**HBの鉛筆**または**シャープペンシル**を使用するように指示してください。
6. マークシートの「**年度**」「**所属コード**」を記入し、それぞれ該当する数字をマークするよう指示してください。
「年度」・・・12 「所属コード」・・・封筒ラベル参照
7. VIの各学部質問欄については、別紙で準備している学部(学科)だけ回答してください。
8. 回答には**約15分間**かけてください。
9. 回収後は速やかにマークシートを残部も含めすべて封筒に入れてください。
10. 提出期限：**3月18日(月) 16:00 厳守**でお願いします。
11. 提出場所：徳島キャンパス 1号館1F教育・研究支援グループのメールボックス
またはメディアセンター6F(薬学部は学部事務室)
香川キャンパス 各学部事務室
12. 何かご不明な点がありましたら下記までご連絡ください。
徳島キャンパス藤本(内線：8664)
香川キャンパス半田(内線：2296)

FD 研究部会活動報告書 第4号

平成24年4月～平成25年3月

平成25年6月発行

編集	徳島文理大学・徳島文理大学短期大学部 FD 研究部会		
発行	徳島文理大学		
	徳島キャンパス	〒770-8514	徳島県徳島市山城町西浜傍示 180 電話：088-602-8000(代表)
	香川キャンパス	〒769-2193	香川県さぬき市志度 1314-1 電話：087-894-5111(代表)
